



藤谷 謹至
議員
(拓政会)



忠類インターチェンジ開通を来年3月に控え、今後の忠類地域観光振興策、道の駅周辺整備をどのように構築していくか伺う。

(1)開通までのスケジュール、今後の整備方針及び整備内容について伺う。

(2)占冠村・芦別市は木質バイオマスの温泉利用を実施しコスト削減、雇用創出を行っている。アルコ236に木質バイオマスの導入を行うてはどうか。

町長 (1)開通日の詳細な日程の公表は未定だが、開通日には帯広開発建設部と帯広・広尾自動車道早期建設促進期成会の共催による開通記念式典を忠類コミュニティセンターで開催すると聞いている。今後の整備方針及び整備内容について、平成27年度の計画として、「忠類インターチェンジ開通記念魅力発信事業」の実施のほか、観光案内看板のリニューアルやナウマン公園遊具の実施設計、サイ

問 平成27年3月開通する帯広広尾自動車道忠類インターの周辺整備について

答 サイクリングマップの作成など観光客誘致へ検討を進めている

クリングマップの作成とサイクリングスタンドの設置による観光客誘致などの検討を進めている。

(2)化石燃料の高騰が続く中、アルコ236の経営を圧迫している状況下にあつては、化石燃料に頼らない新たな代替エネルギーの検討も重要であることから、今後も引き続き効果的な方法について研究をしていきたい。

問 忠類ふれあいセンター福寿における福祉事業および忠類保育所の運営形態について

答 今後とも検討・協議していく

問 平成18年2月6日に幕別町と忠類村が合併して来年には10年目、節目の年を迎える。現在も忠類村独自の事業のいくつかは、引き続き新町の事業として行われている。特に二つの事業について今後の町の考え方を伺う。

(1)ふれあいセンター福寿で行っている生活支援ハウス運営事業、デイサービス事業の今後の運営形態



ナウマン公園の遊具

等について伺う。

(2)忠類保育所は、町が保護者会OB等で構成する運営委員会に委託している状態が続いている。今後の運営形態について伺う。

町長 (1)両事業は現在社会福祉協議会に委託して実施しているが、生活支援ハウス運営事業は、業務の受託困難の申し入れを受けたことにより、デイサービス事業については、一体的に運営することにより在宅介護から介護施設サービスへの一貫した効果的な支援の提供が期待されることから、来

年度以降は福寿に隣接する地域密着型介護老人福祉施設「サテライト型ふらつと忠類」を運営する社会福祉法人幕別真幸協会が適切であると考え、現在、協議を進めている。

(2)運営に当たり、保育士の配置基準や施設、設備などは認可保育所に準じて適正に管理されており、今後は、子ども・子育て支援新制度の内容を含め、忠類保育所のあり方について、さらに検討するとともに、当面の間は、認可外保育所として現行のまま継続していきたいと考えている。

再質問 (1)シーニックカフェの今後における整備方針を伺う。

(2)社会福祉協議会の今後の職員体制、デイサービス事業、生活支援ハウス運営事業の職員の待遇を伺う。

答 (1)忠類地域部会から雨風をしるげる建物を建ててもらおうと、ゴールデンウィークから11月ぐらいまで開設できると相談を受けており、協議を進めている。

(2)常駐は必要と考えているが今後とも社会福祉協議会とは協議をしていく。真幸協会からは職員がそのまま引き継いで利用者に不便をかける形でない形で考えていると聞いている。